医学教育分野別評価　旭川医科大学医学部医学科　年次報告書

2023（令和５）年度

医学教育分野別評価の受審　2019（令和元）年度
受審時の医学教育分野別評価基準日本版　Ver.2.3
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版　Ver.2.35

はじめに

2022年度は前年度から引き続き新型コロナウイルス感染症の蔓延により、講義・実習は大きな影響を受けたが、前年度の経験を生かし、学修支援システムおよびWeb会議システムZoom（以下「Zoom」という。）を使用したオンライン講義やオンライン臨床実習プログラムを取り入れつつ、半数の学生を登校させるなど、なるべく大学に登校させて教育活動を受けることができるよう工夫した。2023年度以降は、原則対面で授業実習を行う方針を決定した。また、新型コロナウイルス感染症の影響により延期していた新カリキュラムは2022年４月から第一学年に開始した。本学全体の教育・研究体制の改善については、教育関係業務の明確化と学長、教育担当副学長、医学科長、看護学科長などの役割分担を明確にし、教育やカリキュラムの改善に向けての取り組み体制の構築を目指している。

本年次報告書においては、教育改善のための本学の現在の取り組みを報告する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2022年4月1日～2023年3月31日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版Ver.2.35の転記は省略した。

１．　使命と学修成果

本学の使命について、点検評価室の下に設置した分野別評価専門部会において、開学50周年となる2023年度からの改訂に向けて継続的に議論している。この議論をもとに執行部（学長、教育担当副学長、学科長）で構成される運営会議において、建学の理念を念頭に、職員、学生代表、地域住民代表、地域医療機関ならびに関連省庁を含めた広い範囲の教育関係者から意見を聴取し、現在の本学の地域性を加味した特徴を生かして、使命を策定する。また、学生が学生同士、教員、医療従事者、患者、及びその家族を尊重し適切な行動をとることを学則・行動規範に盛り込むように検討を進める。

1.1　使命

基本的水準：　適合

特記すべき良い点（特色）

・ 学則第１条（1973年）、教育の理念（2005年）、教育の目標（2005年）、ミッションの再定義（2013年）、第３期中期計画（2016年）に大学の使命を見直している。

改善のための助言

・ 学則第１条（1973年）、教育の理念（2005年）、教育の目標（2005年）、ミッションの再定義（2013年）、第３期中期計画（2016年）の使命の見直しの経過を明示し、この使命の見直

しが、社会からの保健・健康維持に対する要請、医療制度からの要請、および社会的責任とどのような関連があったのかを説明すべきである。

・ 使命では、卒前教育が卒後の教育への準備であることを学生が理解できるように記載すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

使命と学修成果の改善にあたり、学外者を含めたステークホルダーの意見を聴取するため、「経営協議会」「学生と教育担当副学長・学長補佐との意見交換会」「大学運営会議」「関連教育病院等協議会」「教育プログラム評価委員会」で議題とした（資料01、02、03、04、05）。各会議では本学の「使命」「教育の目標」「教育の理念」について説明し、学外委員と意見交換を行った。

今後はステークホルダーからの意見を参考に、学内の関係する諸会議で検討を続け、最終案を執行部（学長、教育担当副学長、医学科長・看護学科長を含む）で構成される運営会議で意見を取りまとめ決定する。2023年11月が本学開学50周年であり、50周年を機に使命を見直すとの計画どおり、2023年度中に終了させる予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料01　令和4年度第8回経営協議会議事要旨（令和4年12月9日）（抜粋）
資料02　学生と教育担当副学長・学長補佐との意見交換会議事要旨（令和5年1月27日）（抜粋）
資料03　令和5年第4回大学運営会議議事要旨（令和5年1月31日）（抜粋）
資料04　関連教育病院等協議会議事要旨（令和5年2月9日）（抜粋）
資料05　旭川医科大学教育プログラム評価委員会議事要旨（令和5年3月13日）（抜粋）

1.3　学修成果

基本的水準：　適合

特記すべき良い点（特色）

・ ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーおよび「医学科2015カリキュラムにおけるコンピテンシー」がともに５つの柱から構成され、この３つの方針の間の整合性が図られている。

改善のための助言

・ 学生が学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重し適切な行動をとることを学則・行動規範に記載すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学修成果の改善にあたり、学外者を含めたステークホルダーの意見を聴取するため、「経営協議会」「学生と教育担当副学長・学長補佐との意見交換会」「大学運営会議」「関連教育病院等協議会」「教育プログラム評価委員会」で議題とした（資料01、02、03、04、05）。各会議では本学の「使命」「教育の目標」「教育の理念」について説明し、学外委員と意見交換を行った。

今後はステークホルダーからの意見を参考に、学生が学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重し適切な行動をとることを学則・行動規範に記載する方向で進める。

改善状況を示す根拠資料

資料01　令和4年度第8回経営協議会議事要旨（令和4年12月9日）（抜粋）

資料02　学生と教育担当副学長・学長補佐との意見交換会議事要旨（令和5年1月27日）（抜粋）
資料03　令和5年第4回大学運営会議議事要旨（令和5年1月31日）（抜粋）
資料04　関連教育病院等協議会議事要旨（令和5年2月9日）（抜粋）
資料05　旭川医科大学教育プログラム評価委員会議事要旨（令和5年3月13日）（抜粋）

質的向上のための水準：　適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための示唆

・　国際保健に関して目指す学修成果をディプロマ・ポリシーや「医学科2015カリキュラムにおけるコンピテンシー」に記載することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学修成果の改善にあたり、学外者を含めたステークホルダーの意見を聴取するため、「経営協議会」「学生と教育担当副学長・学長補佐との意見交換会」「大学運営会議」「関連教育病院等協議会」「教育プログラム評価委員会」で議題とした（資料01、02、03、04、05）。各会議では本学の「使命」「教育の目標」「教育の理念」について説明し、学外委員と意見交換を行った。

今後はステークホルダーからの意見を参考に、国際保健に関して目指す学修成果をディプロマ・ポリシーや「医学科2022カリキュラムにおけるコンピテンシー」に記載する方向で進める。

改善状況を示す根拠資料

資料01　令和4年度第8回経営協議会議事要旨（令和4年12月9日）（抜粋）
資料02　学生と教育担当副学長・学長補佐との意見交換会議事要旨（令和5年1月27日）（抜粋）
資料03　令和5年第4回大学運営会議議事要旨（令和5年1月31日）（抜粋）
資料04　関連教育病院等協議会議事要旨（令和5年2月9日）（抜粋）
資料05　旭川医科大学教育プログラム評価委員会議事要旨（令和5年3月13日）（抜粋）

1.4　使命と成果策定への参画

基本的水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための助言

・　使命の見直しや学修成果の策定には、職員、学生代表、管理運営者ならびに関連省庁を含めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

使命と学修成果の改善にあたり、学外者を含めたステークホルダーの意見を聴取するため、「経営協議会」「学生と教育担当副学長・学長補佐との意見交換会」「大学運営会議」「関連教育病院等協議会」「教育プログラム評価委員会」で議題とした（資料01、02、03、04、05）。各会議では本学の「使命」「教育の目標」「教育の理念」について説明し、学外委員と意見交換を行った。

今後は、学外委員の意見を参考に、「使命」等の見直しを図る予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料01　令和4年度第8回経営協議会議事要旨（令和4年12月9日）（抜粋）
資料02　学生と教育担当副学長・学長補佐との意見交換会議事要旨（令和5年1月27日）（抜粋）
資料03　令和5年第4回大学運営会議議事要旨（令和5年1月31日）（抜粋）
資料04　関連教育病院等協議会議事要旨（令和5年2月9日）（抜粋）
資料05　旭川医科大学教育プログラム評価委員会議事要旨（令和5年3月13日）（抜粋）

質的向上のための水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための示唆

・　地域に密着し、地域の医療課題を解決するという開学時の使命とその使命を果たすための学修成果の策定には、広い範囲の教育の関係者から意見を聴取することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

使命と学修成果の改善にあたり、学外者を含めたステークホルダーの意見を聴取するため、「経営協議会」「学生と教育担当副学長・学長補佐との意見交換会」「大学運営会議」「関連教育病院等協議会」「教育プログラム評価委員会」で議題とした（資料01、02、03、04、05）。各会議では本学の「使命」「教育の目標」「教育の理念」について説明し、学外委員と意見交換を行った。

今後は、学外委員の意見を参考に、学修成果の改善に繋げる予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料01　令和4年度第8回経営協議会議事要旨（令和4年12月9日）（抜粋）
資料02　学生と教育担当副学長・学長補佐との意見交換会議事要旨（令和5年1月27日）（抜粋）
資料03　令和5年第4回大学運営会議議事要旨（令和5年1月31日）（抜粋）
資料04　関連教育病院等協議会議事要旨（令和5年2月9日）（抜粋）
資料05　旭川医科大学教育プログラム評価委員会議事要旨（令和5年3月13日）（抜粋）

２．　教育プログラム

新型コロナウイルスの感染症防止と教育効果のバランスを考慮し、夏休み明けから対面授業を主体としつつ、オンライン授業を併用して教育プログラムを実行した。

2.1　プログラムの構成　（教育プログラムの構成）

基本的水準：　適合

特記すべき良い点（特色）

・　定期的にカリキュラムを見直し、「医学科2009カリキュラム」、「医学科2015カリキュラム」を導入し、改善を継続していることは評価できる。
・　「医学チュートリアル（Ⅰ～Ⅴ）」を低学年から継続的に実施していることは評価できる。

改善のための助言

・　なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2021年度までのオンライン主体の授業では、1年生で成績不良者が多数生じ、これまでにない数の留年者を出すことになった。これはオンライン授業のデメリットと考察し、学生相互のコミュニケーションの低下が原因の一つと思われた。コロナ禍から未だ抜け出せていない状況であったが、このような問題も考慮し、2022年度夏休み明けから、対面授業主体に授業形態を切り替えた。逆にオンライン授業の経験から、対面よりもオンライン形式の方が学習効率が良いと判断される授業科目については、対面を強制せずそのままオンラインで実施した。特に医学チュートリルⅤでは、TBL形式で行っているが、オンラインで行う事により学生全員のIRAT、GRATの結果がリアルタイムに把握できるため、双方向性の授業を行う事が容易であり、引き続きオンラインで実施している。

2022年度の1年生から2022カリキュラムが開始された。今後はこれまでのように6年という長いスパンではなく、もっと短いスパンでカリキュラムを見直し、ブラッシュアップしていく予定である。これに対応する形で、まずは本学の2022カリキュラムが、2024年度からの新モデル・コア・カリキュラムへの準拠状況について調査するアンケート表を完成した（資料06）。2023年度はこの結果を受けて、新しい医学教育モデル・コア・カリキュラムへの対応を進めていく。

改善状況を示す根拠資料

資料06　「医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）」と医学科授業科目との対応調査

2.2　科学的方法

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための助言

・臨床実習において、EBMに基づく医療の実践を教育すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

UpToDateの使用促進を図るために、2022年4月5日、学内でアカウント登録会を開催した（資料07）。シラバス上で臨床実習でのEBM教育の実践状況を調査したところ、アドバンス臨床実習でEBM教育の記載があったのは、31コースのうち18であった。ところが参加型臨床実習では13コースのうち2コースのみしか明示されていなかった。そのためもう一度あらためてEBM教育を実践するよう、また既に実践している場合は、シラバスに確実に明示するよう担当診療科に要請を行うこととした（資料08）。またEBMに基づく内容のレクチャーを行っているか、医療の実践の教育方法に関してのアンケートを行い、21講座から回答を得て、このうち20講座では何らかのEBM教育が臨床実習で実践されていた。実践方法としては、「クルズスでEBMに基づく内容のレクチャーを行っている」「プレゼンテーションをEBMに基づいて行わせている」「レポート作成をEBMに基づいて行わせている」「診断あるいは治療について、EBMに基づいて考察させている」「Pubmed、UptoDateを使用させている」等の回答が得られた（資料09）。2023年度も実践状況を調査し、改善を図っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料07　UpToDate登録会
資料08　令和5年度医学科第6学年アドバンス臨床実習指針の原稿作成について
資料09　臨床実習におけるEBM教育の実際について－集計

2.3　基礎医学

基本的水準：　適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための助言

・　なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022年4月から新カリキュラムが1年生から開始され、「症候学」を開講した（資料10）。腹痛・胸痛を来すcommon disease、16疾患について学習し、医療面接の実践、カルテの記載、プレゼンテーションの実践について学ばせた。授業中には、解剖学、生理学、生化学等で学習する項目と、臨床医学がいかに結びついているかについての学修を促した。さらに腹部、心臓の超音波検査を体験させ、基礎医学がいかに応用されているかについて実体験させた。授業アンケート（回収率62.1%）は、科目の満足度が4.4／5と極めて高い評価を受けた。1年生に行う臨床医学の授業ということで危惧されていたが科目の理解度4.3、難易度4.2と高い評価で、現行の授業形式の有用性が確認できた。一般目標の達成度は4.3であり、これにより基礎・臨床医学の学習エッセンスを確認するという目的は、大部分の学生で達成できたと考えられた（資料11）。2023年度はこれらのアンケート結果も考慮して、授業をさらにブラッシュアップしていく。

改善状況を示す根拠資料

資料10　症候学シラバス
資料11　科目全体の講義企画に対する学生評価（症候学（授業評価））

2.4　行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準：　適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための助言

・　低学年から行われている行動科学教育の繋がりを学生が理解し、その学修内容を臨床実習に活かすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

現状、臨床実習において、全ての学生に対して行動科学教育の実践が出来ないため、とりあえず地域医療実習の学外の実習施設に対して、可能な限り学生を健診業務に参加させ、受診者に結果説明と共に生活指導も行わせてもらえるよう依頼を行った（資料12）。また、その他学外実習実施施設に対しても、関連教育病院等運営協議会で、臨床実習での実践を依頼した（資料13）。2023年度は全ての学外実習において、どれくらいの学生が行動科学教育を受けられたのかを把握するための調査を行うこととした。学内では引き続き行動科学教育のリソース確保について、議論を進めていく。

改善状況を示す根拠資料

資料12　地域医療実習要項作成依頼文書（令和4年5月19日）

資料13　関連教育病院等運営協議会議事要旨（抜粋）及び資料3（実習施設にご協力をお願いしたい事項について）

2.5　臨床医学と技能

基本的水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための助言

・　重要な診療科において、同じ医療チームで４週間以上の診療参加型臨床実習を組み、臨床現場でスタッフや患者、家族から学生が学べる環境を整えるべきである。
・　BSL、診療参加型臨床実習、「アドバンス臨床実習」と段階的に学生が患者診療への貢献を確実に高めていくべきである。
・　臨床実習ですべての学生が健康増進と予防医学の体験ができるよう臨床実習カリキュラムを構築すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

新型コロナウイルス感染症の収束の兆しは見えなかったが、2022年度は学生に感染者が出たり、施設でコロナ患者のクラスターが発生しない限りは、極力対面で臨床実習を行う事が出来た。2021年度はCC-EPOCの使用を開始し、臨床実習で経験した症例・症候の登録を学生に促したが、新型コロナウイルス感染症のため、参加型臨床実習が充分に行えなかったことで単なる見学症例に留まる場合が多く、ほとんど経験症例として登録されなかった。2022年度は臨床実習の学生参加度も改善したので、新5年生には改めてCC-EPOCでの症例登録を説明した。また、経験症例は確実に登録するよう学生、指導医に指導・依頼を行った（資料14）。2023年度は症例・症候を集計し、学内の実習でどのような症例が経験できているかを把握する。加えて今後はCC-EPOCの運用を学外の実習施設でも行えるように、関連教育病院等運営協議会で説明・依頼を行った（資料13）。現在の実習評価は、道内3大学の共通評価表を用いているが、将来的にCC-EPOCのMini-

CEXで行う方針とし、本学の中期計画にも設定した（資料15）。今後は学内・学外ともに準備を進めていく。予防医学の体験は、本学の現状のリソースでは全ての学生に体験させることは困難であるが、2022年度は地域医療実習の受け入れ施設において可能な限り学生を健診業務に参加させ、受診者に結果説明と共に生活指導も行わせてもらえるよう依頼した（資料12）。さらに関連教育病院等運営協議会の際に、それ以外の学外実習施設に対しても依頼した。2023年度は、全ての学外実習施設において、どれくらいの学生が予防医学の体験ができたかを把握するための調査を行うこととした。このことについては臨床実習部門会議でも議論し（資料16）、引き続き学内で予防医学教育のリソース確保について検討を進める。

改善状況を示す根拠資料

資料14　CC-EPOC説明会資料
資料13　関連教育病院等運営協議会議事要旨（抜粋）及び資料3（実習施設にご協力をお願いしたい事項について）
資料15　第4期中期目標・中期計画（計画5抜粋）
資料12　地域医療実習要項作成依頼文書（令和4年5月19日）
資料16　令和4年度第2回臨床実習部門会議議事要旨（抜粋）

質的向上のための水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための示唆

・　低学年から継続的に患者と接する機会を十分に持ち、患者診療への参画を徐々に深めていくことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

新1年生から2022カリキュラムが開始され、症候学を開講した（資料10）。症候学は、課題疾患に対する典型的な医療面接シナリオを学生に作成させ、ロールプレイを学生同士で行わせることで、学生が患者の思いを理解し、いかなる配慮が必要であるかを学修する内容となっており、早期から患者と接する準備が始まることになった。さらに1年生ではSPを使った心理コミュニケーション実習（資料17）を行った後、3年生で社会学実習を行う事になっており、この社会学実習では実際に患者と接する機会を与える予定である。このように段階的に患者と接する機会を得られるようにカリキュラムを組むこととしたが、コロナ禍が継続しているため、実際の患者と接する機会をどのようにしたら与えることが出来るかを検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料10　症候学シラバス
資料17　心理・コミュニケーション実習シラバス

2.6　プログラムの構造、構成と教育期間　（教育プログラムの構造、構成と教育期間）

質的向上のための水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための示唆

・ 基礎医学、社会医学および臨床医学の教育における水平的統合や垂直的統合を行い、カリキュラムの過密化を是正し、学生が理解しやすい学びを構築することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022カリキュラムが1年生から開始された。症候学が1年生に開講され、ここでは臨床医学をベースに、生理学、生化学、解剖学、医療機器学等のエッセンスも学修できる様に配慮され、今後学修する基礎医学、臨床医学の学修する意義について理解させると共に水平・垂直統合を図っている（資料10）。

初年度の科目アンケートでは、「基礎・臨床医学の学習エッセンスを確認する。」という一般目標の達成度として、4.3／5という高い学生評価が得られた（資料11）。新カリキュラムでは全体的に過密化が改善されているが、臨床実習が延長されており、6年生ではまだ過密スケジュールである事が臨床実習部門会議で指摘された（資料16）。これについては新カリキュラムのマイナーバージョンアップを図り対応していく。また2024年度からの新モデル・コア・カリキュラムに対応を図るために、本学カリキュラムで未対応の項目がないか調査するアンケート表を完成した（資料06）。未対応な項目については、カリキュラム部門会議で如何にして対応していくのか検討を進める。

改善状況を示す根拠資料

資料10　症候学シラバス
資料11　科目全体の講義企画に対する学生評価（症候学（授業評価））
資料16　令和4年度第2回臨床実習部門会議議事要旨（抜粋）
資料06　「医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）」と医学科授業科目との対応調査

2.7　プログラム管理　（教育プログラム管理）

基本的水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・ なし

改善のための助言

・ 教育方法、学修方法、学生評価およびカリキュラムの立案と実施を行う責任組織（カリキュラム委員会）を明確にし、その組織に学生の代表を含むべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学のカリキュラム部門会議、カリキュラムワーキングの組織、役割を見直し、カリキュラムの立案・実施、評価の責任部門を明確にする組織改編の検討を開始し、改変案を作成中である（資料18）。カリキュラムの立案と実施を行う責任組織である常設のカリキュラム委員会を新設し、教育を実践する組織である教育センターから独立させる予定である。今後は学内全体で改変案を検討して実行していく。

改善状況を示す根拠資料

資料18　教育に関するマネジメント体制見直し案

質的向上のための水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための示唆

・　教育の広い範囲の関係者をカリキュラム部門会議などの正式な委員とすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム部門会議には1学年の学生参加も開始した。各学年から2名の学生が参加し、学生からの意見聴取を行い、カリキュラム改善の参考資料の一つにしている（資料19）。また、学生も委員として参加する教育プログラム評価委員会が開催され、教育プログラムの評価を受けた（資料20）。

改善状況を示す根拠資料

資料19（学外秘）　令和4年度第1回教育センターカリキュラム部門会議議事要旨（抜粋）

資料20　旭川医科大学教育プログラム評価委員会の開催について

2.8　臨床実践と医療制度の連携

基本的水準：　適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための助言

・　卒前教育から卒後研修に至るコンピテンシーの連続性や、段階的な達成度を示すカリキュラムなど、連携を適切に行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

CC-EPOCの使用を、症例登録から開始している。また将来的に、臨床実習の評価もCC-EPOCで行う事を決定し、本学の中期目標に設定した（資料15）。さらにCC-EPOCの導入について関連教育病院等運営協議会を開催して説明し（資料13）、今後段階的に評価は学内外を問わず、共通してCC-EPOCで行う方針とした。これにより卒前教育・卒後研修のシームレスな評価と学生自身の振り返りがポートフォリオ上で行えるようになる。また、研修医の医療面接の能力の向上を図るために、本学の卒前教育に協力を頂いているSPを使った医療面接研修も、本学病院の研修必修プログラムとして継続実施している（資料21）。これらにより卒前・卒後教育の連携の強化を今後も進めていく。

改善状況を示す根拠資料

資料15　第4期中期目標・中期計画（計画5抜粋）

資料13　関連教育病院等運営協議会議事要旨（抜粋）及び資料3（実習施設にご協力をお願いしたい事項について）

資料21　令和4年度医療面接研修会実施概要

質的向上のための水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための示唆

・　地域や社会からの意見を収集し、プログラムに反映させる制度の確立が望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラム評価委員会では学外病院の院長、保健所室長、一般市民、本学病院看護部長、学生等が委員となり、カリキュラムについての評価を受けた（資料20）。今後も継続して評価を受け、指摘された問題について、短いスパンで改善を図っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料20　旭川医科大学教育プログラム評価委員会の開催について

３．　学生の評価

アセスメント・ポリシーの継続的改正を行い、さらに学生へのフィードバックが確実に行われているかの調査を実施し、実質的な学生評価の改善が成されているかについて確認を行っている。評価の利益相反の規程を整備し、疑義申し立て制度も稼動させている。また、学生評価に関するFDも実施している。

3.1　評価方法

基本的水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・ 2018年9月に学生評価・評定についてのポリシーを作成したことは評価できる。

改善のための助言

・ 知識、技能および態度を確実に評価し、それを学年ごとに積み上げ、学生一人ひとりの成長をモニタすべきである。
・ 様々な評価方法と形式を、それぞれの評価有用性に合わせて活用すべきである。
・ 評価方法および結果に利益相反が生じないように体制を整備すべきである。
・ 評価が外部の専門家によって精密に吟味されるべきである。
・ 評価結果に対して疑義申し立て制度を確実に用いるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

アセスメント・ポリシーに関しては、短いスパンで学生評価が適切にされるように改正を行っている（資料22）。また臨床実習等一部科目での評価が、新しいアセスメント・ポリシーと乖離していることが明らかになったため、次年度は学内で説明を行い、改正を進めていく。評価の妥当性については、教育プログラム評価委員会のメンバーである医学教育専門家より評価を受けた（資料20）。2022年度は途中から対面主体の授業に移行したが、LMSも継続的に利用されている。また全ての授業ではないが、各授業の習熟度を評価する小テストも継続的にLMS上で実行され、その結果もポートフォリオに記録されている。さらにレポート等のプロダクトも、その評価とフィードバックと共に記録されており、学生自身や教員がその成長をモニタできる。

既に臨床実習の症例・症候登録についてCC-EPOCの使用を開始しているが、実習評価もCC-EPOCで行う事を決定し、本学の中期目標に設定した（資料15）。さらにCC-EPOCの導入について関連教育病院等運営協議会を開催して説明し（資料13）、今後段階的に評価は学内外を問わず、共通してCC-EPOCで行う方針とした。これにより卒前教育・卒後研修のシームレスな評価と学生自身の振り返りがポートフォリオ上で行えるようになる。

2021年度から成績評価に対する異議申立制度の稼動を開始した。2022年度の申し立ての件数は1件、制度に関する相談は4件であった。今後も本制度が実稼動しているかどうかについては検討していく。評価の利益相反についての規程を制定し、稼動を開始した（資料23）。今後は規定どおり制度が機能しているか、検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料22　アセスメント・ポリシーの改正について
資料20　旭川医科大学教育プログラム評価委員会の開催について
資料15　第4期中期目標・中期計画（計画5抜粋）
資料13　関連教育病院等運営協議会議事要旨（抜粋）及び資料3（実習施設にご協力をお願いしたい事項について）
資料23　医学部学生の成績評価・進級判定等に関する申合せ及び届出依頼

質的向上のための水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・ 新しい評価法として北海道内3大学医学部共通のルーブリック評価表を導入したことは評価できる。

改善のための示唆

・ 評価方法の信頼性と妥当性の検証をさらに進め、明示することが望まれる。
・ 学生の評価全般について、外部評価者の活用を進めることが望まれる。
・ 臨床実習の評価として、MiniCEXなどの現場での評価の導入を検討することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022年度は夏休み後から、対面授業主体に形式が変更された。評価方法はシラバスに明示されている。評価方法の妥当性と信頼性はIRで国家試験の合格率の推移による検証が可能であり、従来どおり調査を行っていく。臨床実習がオンライン主体で行われた卒業生が本学病院で臨床研修を行うようになっているが、卒後臨床研修センター会議で、対面実習を経験したこれまでの研修医と比較して、能力に大きな差異は指摘されていない。しかし一部の研修医からは、学生時代にプレゼンテーションの機会が得られなかったことで、その能力が低いと自己省察している者もいた。それに対しては、本学病院の研修医は、学会形式の症例発表を学内で行うことが研修プログラムに必須項目として組み込まれており（資料24）、卒後教育で卒前教育の取りこぼしをカバーすることが可能と考えられた。評価方法の妥当性については、今後も教育プログラム評価委員会等で医学教育専門家より継続的にフィードバックを得て、改善に努めていく。臨床実習の評価については、卒後研修とのシームレスな評価や、360度評価等を将来的に行う事として、CC-EPOCの使用を開始している（資料14）。この方針を外部の関連教育病院に対しても説明し協力を依頼した（資料13）。2023年度は外部の関連教育病院でも、学生の経験症例・症候登録をCC-EPOCで開始する予定であり、今後は全ての臨床実習の評価はCC-EPOCのMiniCEXで行う事を決定し、本学の中期目標にも設定した（資料15）。

改善状況を示す根拠資料

資料24　令和4年度医師臨床研修プログラム（抜粋）
資料14　CC-EPOC説明会資料
資料13　関連教育病院等運営協議会議事要旨（抜粋）及び資料3（実習施設にご協力をお願いしたい事項について）
資料15　第4期中期目標・中期計画（計画5抜粋）

3.2　評価と学修との関連

基本的水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・ コンピテンシー達成のための３段階のマイルストーンを策定したことは評価できる。

改善のための助言

・ 評価が、目標とする学修成果と教育方法に整合していることを検証すべきである。
・ 学生の学修をいっそう促進する評価を実施すべきである。
・ 形成的評価と総括的評価との比率を検討すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

アセスメント・ポリシーを継続的に見直し、シラバスに明示される目標の達成度を確実に評価できるように改善を進めている（資料22）。大部分の筆記試験で試験問題と解答の開示を行い、学生の学修を促進している。統合演習試験（卒業試験）は全て問題と正答の開示が行われるようになり、成績評価に対する異議申立ても実働するようになった（資料25）。臨床実習それぞれのコースごとの成績や、統合演習試験の各科目別の得点については開示を予定していたが、学内準備が間に合わず実現しなかった。2023年度は準備を継続して進めていく。

オンライン授業では、出席確認と形成的評価目的で小テストを必須としていた。2022年度は、夏休み明けから対面授業主体に授業方法が変わったが、学内では小テストを必須としていないものの、形成的評価目的で実施している授業も多く、コロナ禍の経験で形成的評価、総括的評価の学内での理解が深まったものと考えている。また、評価について学内FDを行った（資料26）。形成的評価と総括的評価との比率は授業のコーディネーターに一任されている。シラバスに形成的評価と総括的評価との比率が明示されるように、さらなる学内周知を図っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料22　アセスメント・ポリシーの改正について
資料25　試験問題と正答の開示状況についての回答
資料26　アセスメント・ポリシーと異議申し立て制度について（FD）

質的向上のための水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための示唆

・　学生に対する総括的評価や形成的評価の結果に基づいた時機を得た具体的、建設的、公正なフィードバックを行い、すべての学生の学修を確実にすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

全ての授業科目で、試験問題と正答の開示が行われているかの調査を行い、未だ学内の方針に反して、開示が行われていない科目が一定数（試験問題開示は47科目中8科目、正答の開示は46科目中18科目で行われていない）ある事が判明した（資料25）。今後も学内の方針が守られるよう、担当授業コーディネーターに説明を継続していく。統合演習試験については、全ての科目で試験問題と正答の開示が行われた。臨床実習の各コースでの学生評価開示を2022年度から行う予定であったが、成績の提出時期と開示期間、最終成績の決定時期が折り合わず、実施が出来なかった。2023年度は開示できるように準備を進めていく。また臨床実習の各コースの開示時期が現段階の計画では総括評価と同時であり、時宜を得たフィードバックとして意味を成さない。それを踏まえて、地域医療実習のレポート評価をLMSで行うこととし、実習終了後二週間以内の期限を設け提出させ、その評価は提出時に随時行い、フィードバックを行った。今後は開示の時期も含めて検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料25　試験問題と正答の開示状況についての回答

４．　学生

地域に開かれた入学者選抜を実践するため、医学科推薦入試において、2020年度入学者選抜試験から学外面接員制度を導入している。2020年実施の入試から成績疑義申し立ての方法を成績開示資料などに明示している。また、コロナ禍の影響、18歳人口の減少などに対応できるよう、入学者選抜枠を見直した。学生カウンセリングについては保健管理センターで健診情報を電子化するためのシステムを導入するなど、可能なものからスピード感を持って対応するとともに、コロナ禍の学生支援として教育センター教員、学年担当教員、保健管理センター、学生支援課が協力して対応している。さらに、カウンセラーを雇用し、保健管理センターを窓口として、学修上の問題のある学生に対してカウンセリングをさらに充実した。なお、教育センターカリキュラム部門会議及び教育プログラム評価委員会規程において、学生が委員として参加できるよう改正し、議論に加わっている。

4.1　入学方針と入学選抜

基本的水準：　適合

特記すべき良い点（特色）

・　地域の状況に合わせて入学方針が決められ、入学選抜が行われていることは評価できる。

改善のための助言

・　なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

入学者選抜から学部教育、卒後臨床研修に至る教育指導にかかる連携強化を目的として2019年度に設置した「地域共生医育統合センター」（2020年5月　医育統合センターから改称）をはじめ、関係各部門が、地域に開かれた大学であるための取り組みを推進している。その一環として、地域社会の要請に応えた入学者選抜を実施するために、2019年11月実施の2020年度医学科推薦入試において、学外面接員制度を導入した。2021年度入試以降は、コロナ禍のため学外面接員への依頼は見合わせたが、今後は行動制限の状況を踏まえて再開する予定である。

総合型選抜（国際医療人特別選抜；募集人員5名）及び学士編入学（国際医療人枠；募集人員5名）については、コロナ禍における海外への移動制限などにより、学修成果の編成が困難となり不安定な状況が続く可能性が否定できないことなどから、令和6年度入試を最後に廃止することを2022年7月13日の教育研究評議会で決定した。国際医療人枠入学者に対して拠出していた海外留学や語学検定等の支援費用は、全学生を対象に国際貢献を目指すキャリア支援に適用する方向で検討を開始した。

一方、特に道北・道東地域の18歳人口の減少などを受け、学校推薦型選抜（道北・道東特別選抜；募集人員10名）については、令和7年度入試より募集人員を7名とし、総合型選抜（北海道特別選抜）の募集人員を40名とした。

これらを踏まえた「令和7年度旭川医科大学入学者選抜について（予告）」（資料27）が2023年3月15日の教育研究評議会で承認され、2023年3月16日付で本学ウェブサイトに公表した。

改善状況を示す根拠資料

資料27　令和7年度旭川医科大学入学者選抜について（予告）

質的向上のための水準：　適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための示唆

・　入学決定に対する疑義申し立て制度を明示することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2020年実施の入試から成績開示請求における受験者への開示資料の中で疑義申し立ての方法等を追記した。

改善状況を示す根拠資料

なし

4.3　学生のカウンセリングと支援

基本的水準：　適合

医学教育分野別評価基準日本版の改訂があり、Ver.2.35の内容は以下のとおりである。

医学部および大学は、

- **学生を対象とした学修支援やカウンセリングの制度を設けなければならない。（B 4.3.1）**
- **社会的、経済的、および個人的事情に対応して学生を支援する仕組みを提供しなければならない。（B 4.3.2）**
- **学生の支援に必要な資源を配分しなければならない。（B 4.3.3）**
- **カウンセリングと支援に関する守秘を保障しなければならない。（B 4.3.4）**

特記すべき良い点（特色）

・　保健管理センターが、学生支援に貢献していることを実地調査で確認した。保健管理センターの学生支援活動は評価できる。

改善のための助言

・　学修上の問題に対するカウンセリング制度をさらに充実し、学修困難な学生を早期から支援する体制を整えるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カウンセラーを非常勤で配置し、保健管理センターを窓口として、学修上の問題のある学生に対してカウンセリングをさらに充実した（資料28）。これまでどおり、教育センター教員が成績不良者の面談希望に応じて複数回面談を行うなど学修上の問題解決に取り組み、当該学生の成績向上に繋がった。また、教育センター教員の面談は、医師が面談することで、成績不良者に精神科的な介入が必要な学生がいないかを拾い上げる機会になっており、学生支援活動の一つとして有用であり、今後も継続していく。一方、カウンセリング制度が実働するようになり、速やかに精神科的な介入を行う必要がある学生への支援体制が確立されている。

改善状況を示す根拠資料

資料28　メンタル相談のお知らせ

質的向上のための水準：　適合

医学教育分野別評価基準日本版の改訂があり、Ver.2.35の内容は以下のとおりである。

医学部は、

- **学生の学修上の進度に基づいて学習支援を行うべきである。（Q 4.3.1）**
- **学修支援やカウンセリングには、キャリアガイダンスとプランニングも含めるべきである。（Q 4.3.2）**

特記すべき良い点（特色）

・ 復職・子育て・介護支援センター（二輪草センター）の活動が学部学生へも浸透しつつある。

改善のための示唆

・ 学年全般にわたり、学生の教育進度に基づいた学修上のカウンセリングを提供することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カウンセラーを雇用し、保健管理センターを窓口として、学修上の問題のある学生に対してカウンセリングを開始した（資料28）。今後は学生カウンセリングの利用度を調査することにより、カウンセリング制度が実質的に機能しているかについて検証していく。

改善状況を示す根拠資料

資料28　メンタル相談のお知らせ

4.4　学生の参加

基本的水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・ なし

改善のための助言

・ 学生の代表が各種委員会に参加し、適切に議論に加わることを規定し、履行すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育センターカリキュラム部門会議に学生が参加できることを規定し、議論に加わっている。

また、教育プログラム評価規程は、学生が委員として参加できるよう改正し、議論に加わっている。

改善状況を示す根拠資料

なし

５．　教員

教員選考基準を明文化した。さらに教育センターを中心に、教員の教育に対する意識の向上の能力開発をはかるためのFD、説明会、講演会をより積極的に実施していく。教員評価をバージョンアップして策定した。教育への貢献度を客観的に評価することを次年度より行う。医学と医学以外の教員間のバランス、常勤および非常勤の教員間のバランス、教員と一般職員間のバランス、基礎医学、行動科学、社会医学、臨床医学の教員のタイプ、責任、バランスをいかにとるか、運営会議を中心に議論を積み上げる予定である。

5.1　募集と選抜方針

基本的水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための助言

・　カリキュラムを適切に実施するために、新規教員の募集と選抜方針を策定すべきである。その方針には、医学と医学以外の教員間のバランス、常勤および非常勤の教員間のバランス、教員と一般職員間のバランス、基礎医学、行動科学、社会医学、臨床医学の教員のタイプ、責任、バランスを含むべきである。また、教育、研究、診療の役割のバランス、業績の判定水準を明示すべきである。さらに、教員の責任を明示し、その活動をモニタしていることを記載すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

基礎医学、行動科学、社会医学、臨床医学の授業科目において、担当教員が果たすべき教育内容はシラバスに明示している。なお、教育理念を具現化するための効果的なカリキュラム編成により、医療社会学の教員を配置し、1年次一般教育のカリキュラムに関しては、充実している。

従来からの教員評価を次年度以降さらにバージョンアップし、2023年度から運用する。これにより、各教官の教育、研究、診療、管理運営に関する業務バランスとその実績内容をより明確にし、評価基準を公表することで、教員の責務を明示できる（資料29）。2022年度に教員(准教授、講師、助教)の選考基準について明確な基準を策定した（資料30）。また、2019年度から教授選考の際には、選考過程において選考委員会による候補者の面接を必ず行うこととしている。

今後は、医学と医学以外の教員間のバランス、常勤および非常勤の教員間のバランス、教員と一般職員間のバランス、基礎医学、行動科学、社会医学、臨床医学の教員のタイプ、責任、バランスをいかにとるか、大学運営会議を中心に議論し教員の選考基準に反映する予定である。また、教員の男女比率などダイバーシティーの観点からも適切な教員配置の議論を予定している。

改善状況を示す根拠資料

資料29　教員評価実施要項（令和4年度実施分）

資料30　准教授・講師・助教の選考基準について

質的向上のための水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための示唆

・　カリキュラムを適切に実施するために、新規教員の募集と選抜方針を策定し、そのポリシー

には、その地域に固有の重大な問題を含め、医学部の使命との関連性を示すことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教員選考においては、人物評価、教育、研究、診療、社会貢献実績等を総合的に評価し採用している。執行部においても、募集と選抜方針は重要な課題であることを認識し、医学部の使命との関連性について選考基準に盛り込むよう検討している。

改善状況を示す根拠資料

なし

5.2　教員の活動と能力開発

基本的水準：　適合

特記すべき良い点（特色）

- 各講座・医局に訪問して行うFDを実施していたことを実地調査で確認した。この活動は多くの教員に教育プログラムを周知させる活動として評価できる。
- FDを頻回に開催し、教員の活動と能力開発の機会を提供している。

改善のための助言

- 個々の教員がカリキュラムの全体を十分に理解し、カリキュラムの中で自身の教育活動の位置づけに関して理解できるように、FDを継続して実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

FDを複数回開催した（資料31）。さらに2024年度からの新モデル・コア・カリキュラムへの対応を図るため、本学カリキュラムで未対応の項目がないか調査するアンケート表を完成した（資料06）。これらによりカリキュラムの中で自身の教育活動の位置づけに関して理解を促進させた。今後も学内教員の教育活動についての理解度に応じて、必要なFDを企画・実施していく。

改善状況を示す根拠資料

資料31　令和4年度FD参加者

資料06　「医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）」と医学科授業科目との対応調査

６．　教育資源

「キャンパスマスタープラン2016」を見直し、「キャンパスマスタープラン2022」を制定するとともに、2019年度に策定したインフラ長寿命化計画（個別施設計画）に基づき、計画的な施設整備を進めている。また、新型コロナウイルス感染症拡大への対応として、分散登校や在宅でのオンライン授業の聴講が安定的に実施できるようWi-Fiアクセスポイント増設、ノートパソコンの貸し出し、在宅でのオンライン環境が不十分な学生などに対するオンライン授業聴講用教室の提供などを引き続き行った。

「旭川医科大学情報セキュリティポリシー」に則り、セキュリティ担当者による学外研修・演習に参加、各情報機器・アプリケーションのセキュリティアップデートを行うなど、多角的に情報セキュリティの向上を図った。

大学病院が教育資源として適切に機能しているかどうかを把握するためCC-EPOCを用いた経験症例登録を開始している。症例登録が確実に行われるよう、クリニカルクラークシップ開始前の学生、指導医への周知・指導を強化した。また、学外の実習施設でのCC-EPOC運用を円滑に行うため、関連教育病院等運営協議会で説明・依頼を行った。

6.1　施設・設備

基本的水準：　適合

特記すべき良い点（特色）

・　「旭川医科大学キャンパスマスタープラン2016」が策定され、それに基づいて施設・設備が継続的に改善されている。

改善のための助言

・　災害対策について、学生と教職員が協働するための訓練を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「キャンパスマスタープラン2016」を見直し、「キャンパスマスタープラン2022」を制定した（資料32）。引き続き、「キャンパスマスタープラン2022」の整備行動計画及び2019年度に策定したインフラ長寿命化計画（個別施設計画）に基づき現状を調査した上で、必要に応じて見直し、計画的な施設整備を進めている。

災害訓練については、災害状況に応じた医療体制等の確認及び職員等の防災意識の高揚を図るとともに、災害拠点病院として他医療機関との連携を強化する目的で、名寄市立総合病院と合同で机上シミュレーションによる訓練を実施した。今後は、学生とも協働できるような訓練が行えるよう引き続き検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料32　キャンパスマスタープラン2022

6.2　臨床トレーニングの資源

基本的水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための助言

・　学外臨床実習病院・施設の患者数と疾患分類を把握し、学修成果獲得のための教育資源とし

て適切かどうかを検討すべきである。
・ プライマリ・ケアを経験できる臨床実習病院・施設を確保すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022年度は臨床実習学生がCC-EPOCを用いた経験症例登録が確実に行えるように、学生、指導医への周知ならびに指導の強化を行った（資料14）。今後、登録症例の集計・分析を行い、学内で実習経験可能な症例を把握するよう努める。また、CC-EPOCを学外の実習施設でも運用するため、関連教育病院等運営協議会で説明・依頼を行った（資料13）。学外施設での経験症例の集計・分析も併せて、学内・学外臨床実習施設が教育資源として適切かどうかの評価に役立てていく。

改善状況を示す根拠資料

資料14　CC-EPOC説明会資料
資料13　関連教育病院等運営協議会議事要旨（抜粋）及び資料3（実習施設にご協力をお願いしたい事項について）

質的向上のための水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・ なし

改善のための示唆

・ 臨床実習病院・施設について、地域住民・患者の医療ニーズに対応しているかどうかの視点で評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022年度は臨床実習学生がCC-EPOCを用いた経験症例登録が確実に行えるように、学生、指導医への周知ならびに指導の強化を行った（資料14）。今後、登録症例の集計・分析を行い、学内で実習経験可能な症例を把握するよう努める。また、CC-EPOCを学外の実習施設でも運用するため、関連教育病院等運営協議会で説明・依頼を行った（資料13）。学外施設での経験症例の集計・分析も併せて、学内・学外臨床実習施設が教育資源として適切かどうかの評価に役立てていく。

改善状況を示す根拠資料

資料14　CC-EPOC説明会資料
資料13　関連教育病院等運営協議会議事要旨（抜粋）及び資料3（実習施設にご協力をお願いしたい事項について）

6.3　情報通信技術

基本的水準：　適合

特記すべき良い点（特色）

・ 情報通信技術を倫理面に配慮して、適切に活用するための「旭川医科大学情報セキュリティポリシー」を策定し、定期的に点検・評価を実施している。

改善のための助言

・　なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「旭川医科大学情報セキュリティポリシー」については、定期的に見直しを図っている。また、2019年9月に策定した「サイバーセキュリティ対策等基本計画」に則り、本学の情報セキュリティ対策を実施している。2022年度においては以下の対策を実施した。

・2023年3月　コンプライアンス講演会との共催で情報セキュリティ講演会をオンライン開催
・セキュリティ・IT人材の育成として担当者が学外研修・演習に参加
・JPCERT/CC、文部科学省、北海道警察等の脆弱性情報通知を参照し、各機器・アプリケーション(ファイアウォール、各サーバアプリケーション、エンドポイントセキュリティ等)のセキュリティアップデートの実施

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準：　適合

特記すべき良い点（特色）

・　学生が電子カルテに記載し、適正に指導医の監督を受けていることは評価できる。

改善のための示唆

・　臨床実習において、医療チームが学生に連絡を取れる体制を作ることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022年度の臨床実習は対面実習が主体になり、連絡については科目ごとに行われ、実習に支障を来すことはなかった。実習プログラムの掲示は全てLMSを通じて行われ、その変更もLMS経由で行われている。実習時間内での連絡に関しては、学内PHSあるいは学生スマホで迅速に行われており、連絡体制に問題は見られていない。現在の連絡体制で問題がないかどうか、継続して検討していく。

改善状況を示す根拠資料

なし

6.5　教育専門家

基本的水準：　適合

特記すべき良い点（特色）

・　教育センターに専任教員が配置され、カリキュラム開発や教育技法、および評価方法の開発を支援している。

改善のための助言

・　なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022年度は夏休み後に対面授業主体に移行した。TBL形式の医学チュートリアルは、教育セン

ターの主導により、LMS、Zoomを併用によるオンライン双方向学修及び評価の効率を高めた。
今後もpost COVID-19時代の教育技法について、教育センターを中心に検討を継続する。

改善状況を示す根拠資料
なし

6.6　教育の交流
基本的水準：　部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・　なし

改善のための助言
・　学生の国際交流に関する窓口を整え、国外留学のサポート体制を整備すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画
国際医療人枠特別選抜で入学した学生2名が2023年5月からドイツのアーヘン工科大学に留学（約2週間）に行く予定。

改善状況を示す根拠資料
なし

質的向上のための水準：　部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・　なし

改善のための示唆
・　教職員と学生の国内外の交流を促進することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画
海外からの受け入れに係る諸手続きを円滑に行う体制を整えることにより、機能強化を図るため、2023年4月から国際交流推進センターと国際企画室を設置することが役員会で承認された。（資料33、34、35）

改善状況を示す根拠資料
資料33　旭川医科大学国際交流推進センター規程
資料34　国際交流推進センターについて
資料35　旭川医科大学事務局組織規程

７．　プログラム評価（教育プログラム評価）

指摘された項目に対する改善方法について、各部会（IR教育部門会議、教育プログラム評価委員会、関連教育病院等運営協議会等）で検討を行い、改善を推進するための調査、準備が行われた。具体的には、教育プログラム評価委員会で新カリキュラム、アセスメント・ポリシー改正、異議申し立て制度などについて評価を受けた。また、関連教育病院等運営協議会ではCC-EPOCの導入について説明し、今後の評価の在り方について意見交換を行った。IR部門では卒業生調査とその分析、入試資格に関する解析を継続して行った。また、北海道内で初期臨床研修を行う卒業生と、入試改革・カリキュラム改革を連動させた高大病連携事業の関連ついても解析を行い継続して事業の評価を実施している。

7.1　プログラムのモニタと評価　（教育プログラムのモニタと評価）

基本的水準：　部分的適合

医学教育分野別評価基準日本版の改訂があり、Ver.2.35の内容は以下のとおりである。

医学部は、

- **教育プログラムの過程と成果を定期的にモニタする仕組みを設けなければならない。（B 7.1.1）**
- **以下の事項について教育プログラムを評価する仕組みを確立し、実施しなければならない。**
  - **カリキュラムとその主な構成要素（B 7.1.2）**
  - **学生の進歩（B 7.1.3）**
  - **課題の特定と対応（B 7.1.4）**
- **評価の結果をカリキュラムに確実に反映しなければならない。（B 7.1.5）**

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための助言

・　カリキュラムの教育課程と学修成果を定期的にモニタするプログラムを実働すべきである。
・　カリキュラムとその構成要素、学生の進歩、課題の特定の観点からプログラムを評価すべきである。
・　評価の結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022新カリキュラムが新1年生から開始された。1学年で新しく開講された初年次セミナーは、学生の報告書作成能力が不十分であるという学内での意見をもとに導入され、パラグラフ構造等科学論文の基礎をグループ学習させ、成果物に対しては、教員が全てフィードバックを複数回行い、学修させた（資料36）。また症候学は基礎医学を学ぶ意味が理解しづらく、学修モチベーションが低下しているという課題が指摘されたことから導入され、臨床医学を早期に学ばせると共に、生理学、生化学、解剖学や医療機器学が、臨床医学にいかに関わっているのかについての理解を深めさせた（資料10）。初年度の授業理解度は、学生アンケートで4.3／5と高いものであった（資料11）。これらにより学修成果がいかに得られたかは、今後この学年が進級して、様々なプログラムを消化していく中で、継続的に評価していく必要がある。またそれにより成果があると判断されれば、それを新しいカリキュラムに反映させ、重複する授業科目を削減し、より一層のカリキュラム過密の軽減を図ることも可能になる。これまでは6年という長期間のスパンでカリキュラム改定を行ってきたが、もっと短いスパンで改定を行うことを学内で確認している。教員・学生から新カリキュラムで開始された授業を含めたフィードバックをもとに、授業の改善を

図っていく。

改善状況を示す根拠資料
資料36　初年次セミナーシラバス
資料10　症候学シラバス
資料11　科目全体の講義企画に対する学生評価（症候学（授業評価））

質的向上のための水準：　部分的適合
医学教育分野別評価基準日本版の改訂があり、Ver.2.35の内容は以下のとおりである。
医学部は、
- **以下の事項を包括的に取り上げて、教育プログラムを定期的に評価すべきである。**
  - **教育活動とそれが置かれた状況（Q 7.1.1）**
  - **カリキュラムの特定の構成要素（Q 7.1.2）**
  - **長時間で獲得される学修成果（Q 7.1.3）**
  - **社会的責任（Q 7.1.4）**

特記すべき良い点（特色）
・　なし

改善のための示唆
・　教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、長期間で獲得される学修成果、社会的責任など、プログラムを定期的かつ包括的に評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画
学外病院の院長、保健所室長、一般市民、本学病院看護部長、学生等が委員となっている教育プログラム評価委員会を開催し、2022カリキュラムの評価を受けた。この新カリキュラムに関しては、2023年度からの運用開始後に問題点がないかどうか教育プログラム評価委員会やカリキュラム部門会議等で定期的に評価していく。

改善状況を示す根拠資料
なし

7.2　教員と学生からのフィードバック
基本的水準：　部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・　卒業時に学生や保護者を対象にアンケート調査を行い、教員にフィードバックしている。

改善のための助言
・　教員と学生からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画
例年どおり各授業全てで、学生からの授業評価を受け（資料37）、評価結果を授業コーディネーターにフィードバックした。コーディネーターは評価に対するコメントを学生・父母等に対して開示している。また教員と学生からのフィードバックは随時、学生支援課を通して受け付けており、それに対しては教育センターでその対処を検討している。臨床実習担当教員から、アドバ

ンス実習について、各診療科によって学生の診療参加度に大きなばらつきがあるという指摘があり、臨床実習部門会議でこのフィードバックについて検討し、担当診療科にその改善に向けて対処する様に依頼を行った（資料38）。今後も学生・教員からのフィードバックを求め、それに対処することでカリキュラム改善を図っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料37　企画に対する学生評価結果一覧
資料38　令和5年度アドバンス臨床実習指針作成の注意事項等

質的向上のための水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための示唆

・　フィードバックの結果を利用して、教育プログラムを改善することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生・教員からのフィードバックを随時求め、それに対処することでカリキュラム改善を図っていく。

改善状況を示す根拠資料

なし

7.3　学生と卒業生の実績

基本的水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・　卒業生の道内定着率や研究業績調査を実施していることは評価できる。

改善のための助言

・　使命と意図した学修成果、カリキュラム、資源の提供に関して、学生と卒業生の実績を分析すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善のための助言を受けて、学生と卒業生の実績について分析を行う体制を整え、その結果を継続的にフィードバックしている。教育の理念に示している「地域医療に根ざした医療・福祉の向上に貢献する医療者の育成」という使命が果たされているかどうか、「卒後の活動に関する調査」（以下、卒業生調査）を2019年度から実施し、継続してきた。これまで調査結果は詳細な学内限定版とWebページで公開する概要版の2種類を発行してきた。当初はIR室が主体となって卒業生調査ワーキンググループ（以下、卒業生調査WG）を招集し、卒業生調査研究グループを結成して、観察研究として継続実施できる体制とし、第1回の調査・分析を行った。この調査および結果の概要については、2021年度に開催された第53回日本医学教育学会で報告し、卒業生から得られたフィードバックをいくつか紹介した。また、調査結果にあった「過密カリキュラムによる弊害」は、これまで収集した卒業時アンケート結果と合わせてカリキュラム検討WGに報告され、2022年度から適応される新カリキュラムにおいて、授業コマ数を削減する根拠の一つとなった。

卒業生の進路フォローアップも担当する医育統合センター（現：地域共生医育統合センター）が2019年4月に発足した。これを受け卒業生調査WGが調査計画を立案し、地域共生医育統合センターが調査実施を担当、IR室が解析を行う体制が整った。この体制で実施した第2回卒業生調査結果の一部を用いて、卒業生調査WGと本学社会医学講座で、卒業生の地方勤務の意識について解析を行った。その結果は北海道公衆衛生学雑誌に「出身地、入試形態、奨学金と地方勤務の意思との関連：旭川医科大学卒業生質問紙調査」として報告した。2021年度は第3回目の卒業生調査を2021年12月から2022年1月にWebアンケート方式で行った（資料39）。このように卒業生調査を利用して、学生と卒業生の実績について継続的に分析を行い、解析結果の一部を教育の質改善に役立てている。

また、北海道内で初期臨床研修を行う卒業生と、入試改革・カリキュラム改革を連動させた高大病連携事業の関連ついても解析を行い、継続して事業の評価を実施している。JACMEのサイトビジット直後に行われた第51回日本医学教育学会において、北海道出身者に対する入試枠拡大（地域枠40%以上）と重層的地域医療教育を行うカリキュラム改革によって、北海道内で研修を行う卒業生が80%を超えるようになったことを報告した。ただし、高大病連携事業は、新型コロナウイルス感染拡大および教員資源減少のため、一時的に規模を縮小せざるを得なかった。このため入試枠（道北・道東推薦枠）に合わせて、原則として本学教員が直接活動を実施する地域を道北・道東に限定して継続した。2021年度はZoomを用いたグループワーク授業法を一部高校との間で確立することができたため、以前から事業を実施していた地域に対しても再開した（資料40）。このように入試改革やカリキュラム改革による学生と卒業生の実績について継続的に解析を続けており、実績に基づいた評価を行い、教育資源を提供する仕組みを運用している。

改善状況を示す根拠資料

資料39　第3回卒後の活動に関する調査結果概要版

資料40　令和4年度高大病連携事業活動内容

質的向上のための水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための示唆

・　背景と状況、入学時成績に関して、学生と卒業生の実績を分析することが望まれる。

・　学生の実績の分析を使用し、学生の選抜、カリキュラム立案、学生カウンセリングについて、責任がある委員会へフィードバックを提供することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

入学資格に関する解析も学生の成績から分析され、入試にも役立てられている。IR室から2019年11月に「入試区分と学生成績の関連分析」が報告された。この解析結果は入学センターで検討され、長年行われてきた集団面接を中止することとなった。また、共通テスト（一次試験）の学力点傾斜配分が見直され、個別学力試験（二次試験）では理科を中止した。このように入学資格についても、学生の実績を分析し、責任を持つ委員会へのフィードバックを行った。

2023年度入学の地域枠学生から、入学時の確約・確認書を改定し、卒後9年間の従事要件を明記するとともに、毎年5月に勤務先について学長に報告することを義務づけた（資料41）。これにより将来的には、少なくとも地域枠学生の一定期間の勤務実績については、正確に把握できることになる。

改善状況を示す根拠資料

資料41　令和5年度地域枠入学者の確約・確認書

7.4　教育の関係者の関与

基本的水準：　部分的適合

医学教育分野別評価基準日本版の改訂があり、Ver.2.35の内容は以下のとおりである。

医学部は、

- **教育プログラムのモニタと評価に教育に関わる主要な構成者を関与させなければならない。（B 7.4.1）**

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための助言

・　プログラムのモニタと評価に学生など、主な教育の関係者を含めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラム評価委員会（資料20）では学外病院の院長、保健所室長、一般市民、本学病院看護部長、学生等が委員となり、プログラム評価を行った。

改善状況を示す根拠資料

資料20　旭川医科大学教育プログラム評価委員会の開催について

質的向上のための水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための示唆

・　他の関連する教育の関係者に、課程およびプログラムの評価の結果を開示し、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

関連教育病院等運営協議会を開催し、自己点検評価で指摘された改善を要する項目について説明し、その実施の協力を求めた。また本学の教育プログラム全体に対するフィードバックを求めた（資料13）。教育プログラム評価委員会を開催（資料20）、2022カリキュラムを説明すると共に、今後はブラッシュアップを短いスパンで行っていくことを説明し、カリキュラムに対するフィードバックを受けた。

改善状況を示す根拠資料

資料13　関連教育病院等運営協議会議事要旨（抜粋）及び資料3（実習施設にご協力をお願いしたい事項について）

資料20　旭川医科大学教育プログラム評価委員会の開催について

８．　統轄および管理運営

本学のカリキュラム部門会議、カリキュラムワーキングの組織、役割を見直し、カリキュラムの立案・実施、評価の責任部門を明確にする組織改編の検討を開始し、改変案を作成中である。カリキュラムの立案と実施を行う責任組織である常設のカリキュラム委員会を新設し、教育を実践する組織である教育センターから独立させる予定である。学長、教育担当副学長、学科長、教育センター長などの教学のリーダーシップの責務を明確にする方針で大学全体の教育体制を早期に整備することを目指している。

8.1　統轄

基本的水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための助言

・　統轄する組織として、教育センターとその下部組織である部門や、教務・厚生委員会などの組織の大学内での位置づけを明確にし、それぞれの規程を作成し、役割と権限を明確化すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

指摘を受けた事項を踏まえ、教育に関連した業務分担とその指揮系統を明確にした組織運営の実行図（資料18）を策定し、その規定を整備して行く予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料18　教育に関するマネジメント体制見直し案

質的向上のための水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための示唆

・　学生や患者などの教育の関係者を構成員とする組織を整備し、主な教育の関係者やその他の教育の関係者の意見を反映することが望まれる。
・　統轄業務とその決定事項の透明性を確保することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学外委員を含む各種会議体を定期的に開催し、教育関係者の意見を反映している（資料01、05）。教育に関連した業務分担とその指揮系統を明確にした組織運営の実行図（資料18）を作成し、その規定を整備していく予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料01　令和4年度第8回経営協議会議事要旨（令和4年12月9日）（抜粋）
資料05　旭川医科大学教育プログラム評価委員会議事要旨（令和5年3月13日）（抜粋）
資料18　教育に関するマネジメント体制見直し案

8.2　教学のリーダーシップ（教学における執行部）

基本的水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための助言

・　学長、副学長、教育センター長、教授会メンバーなどの教学のリーダーシップの責務を明確にすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育に関連した業務分担とその指揮系統を明確にした組織運営の実行図（資料18）を策定し、その規定を整備していく予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料18　教育に関するマネジメント体制見直し案

質的向上のための水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための示唆

・　学長、副学長、教授会、教育センター長およびその部門、教学関係の委員会などにおける教学のリーダーシップの評価を使命と学修成果に照合して、定期的に行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育に関連した業務分担とその指揮系統を明確にした組織運営の実行図（資料18）を策定し、その規定を整備していく予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料18　教育に関するマネジメント体制見直し案

8.3　教育予算と資源配分

基本的水準：　部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための助言

・　カリキュラムを確実に遂行するために教育予算を組み、その執行を組織として管理すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

予算は、当該年度に係る予算編成方針に基づき、財務委員会の議を経て、経営協議会、役員会において審議・決定の後、執行される。

教育予算は、教務経費、学外実習経費、非常勤講師、共用試験、教育環境等整備費、学生指導等の経費に分かれており、事務局学生支援課において執行管理している。

教育研究経費（設備整備経費）は、講座等が必要とする教育関係の設備・備品購入の財源であり、講座等からの要望について、教務・厚生委員会委員長である教育担当副学長が、緊急性や整備計画等を踏まえて調整する。当該年度の購入実績は、教務・厚生委員会に報告している。

改善状況を示す根拠資料

なし

8.4　事務と運営

基本的水準：　適合

特記すべき良い点（特色）

・ 教育プログラムと関連する活動を支援するため、必要な事務組織および専門組織を設置し、適切な人材を配置し、運営のための資源を適切に配分していることは評価できる。

改善のための助言

・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

事務局において、教育を担当する部長級職員が、同時に教育に関する人事や予算を掌理できる組織体制としており、円滑な調整ができている。

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準：　適合

医学教育分野別評価基準日本版の改訂があり、Ver.2.35の内容は以下のとおりである。

医学部は、

- **定期的な点検を含む管理運営の質保証のための制度を策定し、履行すべきである。（Q 8.4.1）**

特記すべき良い点（特色）

・ 管理運営を「中期目標・中期計画・年度計画」の点検・評価により、定期的に実施している。

改善のための示唆

・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

管理運営は「中期目標・中期計画」の点検・評価により、引き続き定期的に行っている。

改善状況を示す根拠資料

なし

8.5　保健医療部門との交流

質的向上のための水準：　適合

特記すべき良い点（特色）

・ 旭川エリアの住民の身体的、精神的および社会的な健康の達成、ならびに教育・地域貢献を図ることを目的として「旭川ウェルビーイング・コンソーシアム」を設立し、行政と連携した活動を行っていることは評価できる。

改善のための示唆

・ 学生が地域の保健医療関連部門の活動に参加できる機会を作ることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム事業の一環として、地域社会に対して研究・学修成果を発表する「合同成果発表会（ポスター展示）」に本学学生が参加した（資料42）。また、「私の未来プロジェクト事業」（旭川市オンライン子育て相談会＆ミニ講座）において、本学教員1名学生10名（医学科3名、看護学科7名）でZoomの講座を行い、9名の参加があった（資料43）。

今後もコロナ禍で、学生全員が直ちに保健医療関連部門の活動への参加は困難な状態が続くと予想されたため、関連教育施設、特に地域医療実習受け入れ施設について、可能な限り実習学生に検診を含む保健医療活動への参加させて頂くよう依頼を行った（資料13）。2023年度はこの実施状態について調査を行い、その結果を解析して、今後如何にして学生を地域の保健医療関連部門の活動に参加させる事が出来るのかについて検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料42　2022年度合同成果発表会抄録集
資料43　2022年度私の未来プロジェクト事業日程表
資料13　関連教育病院等運営協議会議事要旨（抜粋）及び資料3（実習施設にご協力をお願いしたい事項について）

９．　継続的改良

教育プログラム評価委員会を定期的に開催し、また本学の2022年開始の新カリキュラムが、医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）にどれだけ対応しているかの調査を行い、その結果を受けて短いスパンで教育プログラムの改善を図っていく。異議申立て制度の運用を開始し、制度についての検証・改善を行いつつ、運用を推進していく。プログラム策定、プログラム管理、プログラム評価を確実に行うための組織再編整備は、来年度に完了させ実働させる予定である。

基本的水準：　適合

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための助言

・　教育プログラムのPDCAサイクルを適切にまわすために、プログラム策定、プログラム管理、プログラム評価を確実に行うための委員会組織を設置し、実働させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

PDCAサイクルを組織的に回すための組織改編・構築案を作成中である（資料18）。カリキュラム委員会を新設し、プログラム策定・管理を担うこととし、教育の実践を行う教育センターから独立させる。プログラム評価は教育プログラム評価委員会が担当することを明示する。今後はこの案を基に学内で意見を求め、ブラッシュアップさせて策定を目指していく。

改善状況を示す根拠資料

資料18　教育に関するマネジメント体制見直し案